



日	月	火	水	木	金	土
			1 漂着物展～28日、 さかなクンのおさかなイラスト展～28日、 中小企業金融公庫出張相談	2	3	4 九十九島かき食うカキ祭り～19日
5	6	7 出前保育「みんなよっといでー」	8	9	10 発明相談 春の植木市～19日	11 建国記念の日 動物獣舎探検隊 ヤドカリ展～5月14日
12	13	14 子育て講演会「たくましい子育て」 子育て講演会「育児は育自」	15 市立総合病院の健康教室	16 スピカまつり～19日	17	18 郷土研究所の公開発表会 佐世保ブギウギ(19日モ)
19 春のコンテナガーデン作り講習会	20	21	22 企画展「日本に住みついていた生き物」～3月3日	23	24 相浦愛宕市～26日	25 認知症を考える講演会 動物獣舎探検隊
26 市民セミナー・講演会「障害者自立支援法と地域生活」	27	28 出前保育「みんなよっといでー」	2月は生活習慣病予防月間 毎月第1水曜 中小企業金融公庫出張相談 (13～15時、佐世保商工会議所) 毎月第2金曜 発明相談 (10時～15時30分、市役所商工労働課)			
3月上旬の主な行事予定 3/1 新入学児童の交通安全教室(～4月7日) 3/3 出前保育「みんなよっといでー」 3/4 環境プラントバスツアー 3/5 火の用心チャリティーバザー、小動物の飼育教室						

テレホンガイド

救急・火災

医療機関案内 ☎23-8199
火災情報 ☎0180-999-999
Eメール shc783@city.sasebo.lg.jp

Eイズ相談・性感染症相談

専用相談電話 ☎0120-104-783

教育相談

青少年教育センター ☎22-0077
(毎月第3日曜の13時～16時には、休日教育相談を受け付けています)

女性相談

スピカ ☎24-6180
(水曜と祝日を除く毎日、9時～16時)

消費生活相談

市消費生活センター ☎22-2591
(土・日曜、祝日、年末年始を除く毎日、8時30分～17時15分)

2月の健康テレホン

県保険医協会 ☎23-4300
3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます
月 鳥インフルエンザ
火 下肢閉塞性動脈硬化症(下肢の動脈がつまる)
水 インフルエンザの早期診断と治療
木 花粉症の予防と治療
金 自殺と精神障害
土、日 間質性膀胱炎

人のうごき (1月1日現在)

総人口 248,167人 (-167)
男 116,769人 (-105)
女 131,398人 (-62)
世帯数 98,447世帯(+36)

12月中のうごき

転入 505 転出 609
出生 170 死亡 233

見て、聞く
させぼ
市政だより

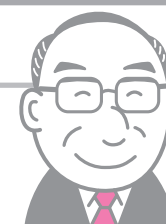
テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)

NBC(9時25分) NIB(11時25分)
NCC(11時40分) KTN(17時25分)

ラジオ

NBC 毎週日曜日 9時25分
FM長崎 毎週火曜日 9時05分

長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄



こんにちは市長です。

食育を考える

戦後の農業は殺虫剤などの農薬に守られ、化学肥料の多投による収量増や効率化をひたすら求めてきました。その結果、見掛けを重視した作物が食材として提供されてきました。

そんな農作物を見直し、健康な土からできたおいしく栄養価に富んだ野菜を市民に食べてもらいたいと、約10年前から活動を続けている「大地といのちの会」という市民団体がいます。代表者は本市在住の吉田俊道さんですが、「生ごみリサイクル有機農法」の実践活動を通じてその普及に努めてこられました。既に市内の小・中・高校の数校でこの農法による野菜づくりが実施され、高い評価を得ています。

生活のさまざまな分野で「食の乱れ」が指摘されて久しいのですが、ようやく国も知育、体育、徳育などに加えて、昨年7月食育を推進する食育基本法を施行しました。「食育」といっても間口が広くどこから手を付るべきか迷うほどですが、本市も平成18年度から食育の一つとして農家や「大地といのちの会」に協力をお願いして、学校などで元気な野菜づくりを実証しながら、食育を推進したいと考えています。

佐世保市長 光武 顕

歴史散歩

れきしさんぽ 487
佐々加雲切腹の金重島(大潟町)

宝永7(1710)年に書かれた平戸松浦藩の古書「印山記」第18節に「彼杵手属の事に付き、針尾船軍、北川長介働きの事」が書かれています。戦国末期の天正14(1586)年、松浦隆信配下の佐々加雲が、九十九島の一つである金重(繁)島で切腹した故事が記されています。

当時平戸松浦氏と大村氏は佐世保、日宇、早岐、針尾島の領有をめぐって攻防を繰り返していました。事の起こりは彼杵付近の地侍が松浦隆信側に属したいと加雲や佐志方善芳に伝えたことです。ところが彼杵の大村与市は事前に察知し、平戸からの航路に当たる金重島付近に船10隻を出して待ち伏せしました。「佐々佐志方夢にも知らず水の頭口を通りぬける時分、四方より取り込まれ」てしまい、抵抗もかなわ



ず島に上陸した加雲は、命運つきたと切腹して果てます。もう一人の同志佐志方善芳は、北川長介と共に島の洞穴に隠れていましたが、大村方に捕まりました。大村与市は、加雲の首と共に佐志方善芳の身柄を自分の船に移し、大村へと漕ぎ戻って行きました。これを知った佐志方善芳の子庄兵衛は、相浦の援軍と共に針尾瀬戸で大村勢を待ち伏せ、急潮で操船が自由にできないすきを見て矢を射かけ、百余人を倒しました。この混乱で善芳は逃れ、海士舟に隠れて無事帰還しました。

金重島には、平戸松浦方の手で佐々加雲の墓が建てられ、南にある岩を加雲岩と呼んでいました。



島は太平洋戦争後、米軍の爆撃訓練の標的になりかけ、市の反対で無事でした。(筒井隆義)